

## 2006年度後期立教大学授業評価アンケート 所見入力票

科目コード EX260	開講曜日 月	担当者 原田 久	履修者数 279
科目名 行政学	開講時限 4-4	教室 8101	回答数 111

**単純集計結果** (5:大いにそう思う, 4:そう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無回答)

5	4	3	2	1	無回答	エラー

この授業へのあなたの取り組み方について、以下の項目にどの程度当てはまりますか。

1) 授業全体を通じての出席率 (5:90%以上 4:70~89% 3:50~69% 2:30~49% 1:30%未満)						
2) この授業に積極的に参加した						
3) この授業の履修にあたって十分な準備ができていた						
4) 授業をきっかけにして発展的な勉強をした						
5) シラバス(履修要項の講義内容)は受講に役立つ						
6) 授業の予習復習等に毎週当てた時間 (5:3時間以上 4:2~3時間 3:1~2時間 2:1時間未満 1:0時間)						

この授業の進め方は、以下の項目にどの程度当てはまりますか。

1) 聞きやすい話し方だった						
2) 各回の授業内容の量が適切だった						
3) 各回の授業のねらいは明確だった						
4) 各回の授業内容は明確だった						
5) 十分な静肅性が保たれた						
6) 教科書・授業レジュメプリントや参考文献が効果的だった						
7) 板書のしかたが適切だった						
8) 映像視覚教材(ビデオ、OHP、パワーポイントなど)の使用が効果的だった						
9) 教員は授業の準備を周到に行っていた						

この授業の内容は、以下のどの項目にどの程度当てはまりますか。

1) 新しい考え方・発想に触れた						
2) 基本的知識が得られた						
3) テーマが現代的な意味を持っていた						
4) 最新の学問成果に触れた						

総合的にみて、この授業は以下の項目にどの程度当てはまりますか。

1) わかりやすい授業だった						
2) 授業全体の目標が明確だった						
3) 学問的興味をかきたてられた						
4) この授業を受けて満足した						

### 授業評価に対する担当教員の所見

昨年度と今年度の授業評価アンケートの結果(平均点)と比較しながら所見を述べたい。アンケートの項目の8項目のうち2項目(5項目はほぼ変化なし(-0.02~+0.02ポイント)、視聴覚教材に関する質問項目は0.15ポイントの減)、では4項目すべて、では4項目すべてで昨年度の評価結果を上回った。しかも、の最終項目である授業満足度については昨年度の3.95から4.13に大きく向上した。したがって、昨年度以上に今年度の講義内容及び方法が学生に支持されたと思われる。しかし、昨年度改善が数多く指摘された板書の仕方については、今年度の目標として掲げた4程度に届かなかった(2.91 2.93とほぼ変化なし)。この点については、来年度の課題として引き続き改善に努め、4程度まで向上することを目標として掲げたい。なお、視聴覚教材の使用については、学生からの要望に留意しつつも、昨年同様、板書が困難になることや学生への情報伝達量の減少等の理由から引き続き見送りたい。

### 自由記述欄に対する担当教員の所見

自由記述欄では、昨年に引き続き、立教大学法学部の平均的な講義1回分の「値段」を5000円とした場合、行政学の講義1回にどの程度支払う(潜在的)意思があるかを尋ねた。その結果、学生一人当たりの平均的支払意思額(willingness to Pay, WTP)は7823円(昨年度比で1569円増)となり、今年の講義内容及び方法が昨年以上に学生によって高く評価されたことを裏付けるものとなった。他方で、昨年度指摘が多かった講義中の水分補給については今年度初めに一部許容したものの依然として希望者が多い。来年度も引き続き一部許容する。複数の学生に質問すると講義が間延びするという意見については、学生の反応を注視しながら臨機応変に質問の回数を決定したい。レジュメのさらなる工夫を求める意見については、より読みやすくなるよう改善する(改行を増やす、強調文字を用いる、講義のポイントや論点を示す)。板書については「所見」欄に既述した。

### 改善に向けた今後の方針

上記2欄において既述した。